2/05練習予定

「光よそして緑」

07P 12s 女声の和音 Cm 前の「なにを」とは表現が異なる mpの表現の工夫 20m先で響き作る

それに答えるのがテノール

10P 23s以降 5連符、25s 男声のリズム　2回目の「進み」は言い換える

「月の夜」

冒頭 テノールは暗くない。暗い夜に月の光が心を照らす たたずむ２人を表現する

8sからの女声の動き、和音の成り立ち、言葉の処理

13P 13s 女声のひっそり感を出す　前で50m先にppで届かせる　　16s 初めてﾒｼﾞｬｰｺｰﾄﾞ明るくなる

17s以降のデュナーミク（強弱）を強調して　言いたいのは「こころを」　詩のニュアンスに沿った強弱

19s Pに絶対にする　soprano P-mPだけど喉開けて詰まらない

22s B､Tに引き継がれるメロディーラインはmolto regato。1ｼﾗﾌﾞﾙを強調しない。音符間で切れない

33s～41s B　テヌート（音符内は一定の強さ）とアクセント（上に当てるような）の具合

61s～93s １音ずつ確認する　　Alto 母音、音程がかわってもpositionは動かさない

95s　男声は前とはスラーのかかり方が違う　その違いがわかるように歌う

「強い感情」

冒頭の男声合唱　１音ずつ確認

26s B 上へのアクセント(下に押さえつけない)

39s 和音の確認（特に入り）詩のニュアンスを捉えて　S､B 母音響きを狭く（鼻の幅）　嘆きがない

46s テノールがメロディー 他はテノールよりも目立たなく　大きな流れに乗って

57s 女声は前のフレーズ だから主役でないP　新しいフレーズはテノールから　だからmf

65s Risolutoでテンポ落ちるが、その後は変化なし　「ぼくの」の食いつき遅れない

「終わりのない歌」

はじめから８小節は小節ごとにハーモニーが違う意識（ピアノ伴奏は1音ずつ下がっている）

9sからはテノールメイン　テノールは明るめに広がりをもって

17s 男声は４小節切らさない 言葉を届ける意識で　１小節ごとに和音が違うことを意識して

25s Fの和音　解放感、優しさ 27s 短調風「惑わす」を表現する AltoｱﾙﾄのAsが性格を決める

29s,30s 「強さ」の表現が異なる　外への強さ、内の強さ　ここもAltoが性格を決める

この後の強弱の意味合いを理解する　なぜそうしているのか　作曲家の思いを考える

30s テノール 低い 上の歯の延長で響きを作る mfなので力まない　女声の「強く」を少し上回る程度

32s Bass半音上がり籠らない「あ」母音を喉でなく軟口蓋の上で（ずっと上の歯を引き上げて＝これ全員）

34s 35sのB　音は同じだが役目が異なる 34s 5音　35s Gmの7th＝前に鋭く（潜らない）

37s→38s　次の転調の予感を漂わせる　特に内声の全音上がりを明るめに ここもAltoが決め手

41sからは広がりを持って、Bは喉で歌わない 鼻の高さで保つ　全体的にVolumeは抑制して ffとの対比

「君のそばで会おう」

　最初の９小節は歌いすぎない PからcrescしてもmPまで、最後はP。和音を聞きあう。

13s～32s 女声は脇役。鼻の幅で。Hum.は鼻腔で柔らかく、舌先は上歯裏、鼻腔広げて。ピアノ1拍めと同じ

男声はやわらかく、愛情をもって、regatoで。28s piu forteは音程が開くので力でなく広がるように。

33s Alto,Bassは温かい気持ちで子供を包み込む気持ちで

39sからメロディーはsopranoへ。Bassは脇役へ cresc.は力を入れず、音程下がってもpositionそのまま

41sから主役はAlto、抜かない、前に、上歯の前で喋るように。すぐにsopranoに主役を譲る。

49s 全員unison でも乱暴にならず音程、雰囲気を合わせる。

「ふるさとのように」

最初 Alto F音　他のパートはGes-Durを構成も、一人で違う→次の小節で解決（Alto Ges-Dur根音）

2s､3s Alto F音とF♭。初めがGes-DurのMajor7、次がGes-Durの7th。歌詞の性格を表す和音を決める。

3sは下３声が和音の役目を交代している。F♭Alro→Tenor G Bass→Alto　D♭ Tenor→Bass

4s Tenor Ces(B)音 これで解決。

5s～8sはminor（短調）に転じている。「冷たく澄んだ水がいつもいつでも」の清冽さを表している

6s～7s ここも和音の構成の決め手はAlto。前後でTenorと同じ音程を前後で引き渡している。

5s～7sのBassの半音進行も大切なポイント、外したら台無し。

8sの最初はSopranoとBassなオクターブユニゾン。　ここでもTenor→Altoに引き渡し。

9s 和音のMajor（長調）系D-9th→D　３拍目はSoprano Des, Bass D, Alto E と繊細さが必要

　mfを膨らむ＝「あふれて」を表現している。

10s Altoは水があふれて下に流れるのを音型で表現しているので、その様を表現する。

12s 初めの８分音符の和音、D♭の7thをAltoの第３音を半音上げて性格を変えているように思う。

12s～15sはBassとSopranoの交錯がPointの１つ。そして、15sのAltoの動きで解決＝Altoが大切。

16sからは男声が主役で広がりが出てくるところ。最初の変形。ここもAltoが大切。

20s 女声は基本３度で動くHum.　Hum.の響きを鼻腔（鼻で深呼吸して広がる前の部分）で、「ン」でない。

20s～26sは多くが7thなど四和音の構成。

24sは１・２拍めと３・４拍めでSoprano・Tenorが入れ替わり→意識する

26～27sもTenorとAltoの受け渡し、AltoのE♭♭が曲想を決める。どういう音色で歌うか追及必要

30s～33sは比較的淡々と進むが、32s 3拍めが悲劇的な和音になっている。そこからはminor調。

34s～37sは2拍でコードが変わる＝雰囲気が変わる　それをいかに表現するか。

特に34s～35sは下３声だけになり、心の葛藤、揺れ動きを和音を変えることで表現している。

38sからは最初の音型に戻る。ただし、44s BassはTenorの音型を引き継ぎ、46sのクライマックスに導く。

48s 「愛に満ちて」のあと、「そーっと」をmPの音量と音程で表現している。その雰囲気を表現する。

　ただし、Bassは音程が下がってもPositionは鼻の高さから落とさない。でないと次のC♭まで上がれない。

53sのTop TenorのAs音はfarsettoでもかも。

55s～62s 狭い音域から徐々に広がり、56～57sは女声の音高の動きでデュナーミクを作る。

　59s auftaktからmfに挙げて、60sのfに高める。Bassは低いが、上に広がりをもって。

63sから下３声で和音進行を感じてHum.できるようにする。